

研 究 分 野	資源管理	部 名	資源開発部
研 究 課 題 名	ウスメバルを育む清らかな里海づくり事業（蛸集幼魚調査）		
予 算 区 分	水産基盤整備費		
試験研究実施年度・研究期間	H20～H21		
担 当	高橋 進吾		
協 力 ・ 分 担 関 係	増養殖研究所		

〈目的〉

ウスメバルの生残への影響が大きいと考えられる流れ藻から藻場、藻場から海底への移行期における有効な保護・育成手段について検討するための調査を行う。当所では、漁場施設がもつウスメバル育成効果を検討するため、魚礁漁場においてウスメバル幼魚の蛸集状況や生物的特徴等の把握を担当する。

〈試験研究方法〉

(1) 釣獲調査

平成20年6月、9月および12月に風合瀬沖において、風合瀬漁協所属の標本船を用いて水深別（40～50m、70～80m、90～100m、110～120m）にウスメバルの釣獲調査（漁法：一本釣）を行った。

(2) 蛸集状況調査

平成20年7月、11月に風合瀬沖人工魚礁（平成3～5年度設置）周辺海域において、試験船青鵬丸に搭載された計量魚探 EK-500 を用いてウスメバルの蛸集状況を調査した。また、魚探反応のあった魚種を確認するための釣獲調査を行った。

〈結果の概要・要約〉

(1) 釣獲調査

ウスメバル釣獲調査結果では6月が91尾と多く、盛漁期の春に出現が多い傾向にあった（表1）。時期別水深別出現動向をみると、70m以深には尾叉長18cm以上の漁獲対象主群が多いこと、浅場（50m付近）には尾叉長18cm未満の幼魚が主に分布するが、高水温期（9月）にはより低水温域の深場へ移動することなどが考えられた。

(2) 蛸集状況調査

風合瀬沖人工魚礁（水深53～55m）周辺で計量魚探調査を行い、エコーグラムを得た（図1）。魚種確認の釣獲調査では、7月はキツネメバルやアイナメ等が、11月はウスメバルやフクラゲ等が漁獲された。

〈主要成果の具体的なデータ〉

表1 ウスメバル釣獲調査結果表

調査場所 (風合瀬沖)	6月			9月			12月		
	漁獲 尾数	割合	平均 尾叉長	漁獲 尾数	割合	平均 尾叉長	漁獲 尾数	割合	平均 尾叉長
水深	尾		mm	尾		mm	尾		mm
40-50m	24	26%	176	3	4%	171	13	24%	172
70-80m	9	10%	220	23	34%	225	2	4%	195
90-100m	30	33%	189	30	45%	212	16	30%	218
110-120m	28	31%	165	11	16%	241	23	43%	212
計	91	100%	181	67	100%	219	54	100%	204
分布域の水温	9~11℃			11~17℃			15℃		

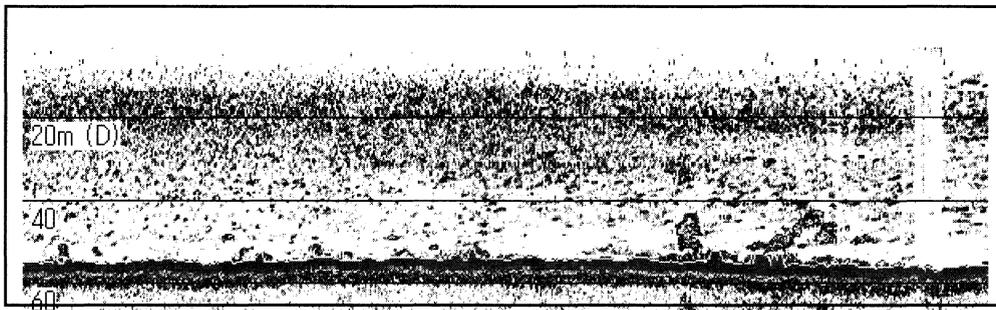


図1 風合瀬沖人工魚礁付近のエコーグラム(7月)

〈今後の問題点〉

特になし

〈次年度の具体的計画〉

今年度と同様

〈結果の発表・活用状況等〉

- ・ウスメバルを育む清らかな里海づくり検討協議会で発表
- ・計量魚探データの解析等を大学等の他機関と検討